

いわみざわ市の教育

—特集—

北村・栗沢地区に“小中一貫教育”を導入します

- 通学路の安全確保
- 青少年健全育成環境浄化モニターの活動紹介
- 楽しいキッズスポーツの紹介
- 学習活動支援係移転のお知らせ
- いわみざわチャレンジスクール
- 教育長室から

岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報、市教委ホームページの更新情報などを発信していますので、ぜひ「いいね！」してください。
<http://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



【写真の紹介】6月20日に子育てボランティア『おたすけまーず』のみなさんによる公演がありました。天候にも恵まれ、参加した子どもたちはとても楽しんでいました。

北村・栗沢地区に “小中一貫教育”を導入します

～子どもが一層輝く教育を目指して～

全国的に少子化が進んでおり、岩見沢市でも同様の傾向が見られます。このことを背景に、教育委員会では、令和 2 年 7 月に「岩見沢市立小・中学校適正配置計画」を策定し、子どもたちにとって望ましい教育環境を提供するため、市内小中学校の学校規模の適正化について示しています。

その前期計画（令和 2 年度～令和 5 年度）として、北村・栗沢地区を対象に、“小中一貫教育”を導入することになりました。

Q. “小中一貫教育”とは何ですか？

A. 小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9 年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育（文部科学省による定義）のことです。

Q. どうして導入するのですか？

自己肯定感を高めたい

「自己肯定感」は、学習意欲と大きく関連することから、小学校と中学校での連続した教育活動を通して成功体験を数多く積み重ね、「自己肯定感」を高めることが大切です。



Q. いつから導入するのですか？

A. 令和 5 年度からスタートします。

「中1ギャップ」の解消

「不登校児童生徒数」や「いじめの認知件数」は、中学校入学をきっかけに、大幅に増加する傾向があります。「中1ギャップ」と呼ばれる、こうした課題を解消するために、学年間の段差や小・中学校の接続を意識し、9 年間を見通した教育や、異学年で協力し合う取組を進めることが大切です。

学年段階の区切り

小学校高学年の児童の身体的発達は、昭和 20 年代と比較して、2 年程度早まっており、思春期の到来時期もまた早まっていると言われています。それにあわせ、現行の 6－3 制にこだわらず学年段階の区切りを柔軟に考えることが大切です。

きめ細かな指導

小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で授業を行う乗り入れ授業により、長期的な視点に立った専門的できめ細かな指導を可能にすることが大切です。

Q. 期待する効果は何ですか？ 「中1ギャップ」の解消

学力の向上

9 年間を見通した指導計画や学びのルール、教科担任制や相互乗り入れ授業など一人一人の理解度や定着度に合わせたきめ細かな指導により、児童生徒の学力を伸ばします。

家庭・地域との連携強化

小中一貫教育に関する基本方針や小・中学校の取組について、保護者や地域住民に説明する機会を設けたり、ホームページに掲載することにより、学校・家庭・地域が目指す子ども像を共有し、連携して取り組む風土が形成されます。

Q. 校舎はどうするの？

北村地域	既存の校舎を有効活用し「施設隣接型」とします。
栗沢地域	既存の校舎を使用し「施設分離型」の小中一貫教育を進めます。また、校舎等の改修についても検討していきます。

「施設隣接型」⇒小学校と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されている

「施設分離型」⇒小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている

おわりに

学校は多様な考えを持つ子どもたちが集い、協調性や社会性を育み、集団生活を通して切磋琢磨しながら学びあい、豊かな人間性を築いていく場であるとともに、地域のよりどころとしても重要な役割を担っています。

小学校と中学校 9 年間の一貫した取組が地域や家庭に広く理解され、浸透していくことで、その成果は確かなものとなります。

今後は北村・栗沢両地区における“小中一貫教育”の成果と課題を明らかにしながら、“小中一貫教育”の全市的な拡大について検討していきます。

教職員と児童生徒、児童と生徒など様々な交流活動を通じて、中学校への進学に対する不安を小さくすることができます。

教職員の能力向上と専門性の発揮

小・中学校での連携した授業を通して、それぞれの教職員が互いに指導内容や児童生徒の実態、発達の段階などの理解を深めることができ、より効果的な指導が可能となります。

特別支援教育の充実

小・中学校の教職員が、互いに授業参観したり、効果的な指導方法について情報を共有することにより、支援を必要とする児童生徒一人一人の特性やニーズを的確に捉えることができます。



【お問合せ先】指導室 電話 0126-35-5127

通学路の安全確保



(市 HP ~通学路の安全点検)

岩見沢市教育委員会では、児童生徒が安全・安心に通学できるよう、警察や道路管理者と連携して、毎年通学路の安全点検を行い、必要な対策を協議しています。

点検によって取りまとめた危険箇所は、学校ごとに地図上に明示して市のホームページで公表しています。子どもたちのため、多くの方々にご覧いただき、通学路の安全確保にご協力ください。



(公表画像のサンプル)

【お問合せ先】学校教育課 学校教育係 電話 0126-35-5125



岩見沢市青少年健全育成環境浄化モニターの活動紹介

岩見沢市青少年健全育成環境浄化モニター連絡協議会は、市内小中学校のPTA等から推薦をいただいた27名の保護者の方で構成され、青少年をとりまく有害環境の浄化と健全育成を図ることを目的に活動をしています。

活動内容は、公園、通学路、店舗等の巡回調査活動、年2回の広報誌「ふれあい」の発行、その他にも青少年健全育成に関わることをテーマにした研修会や交流会、視察研修の開催等、年間10回程度の活動を行っています。

(公園巡回の様子)



(研修会の様子)



【お問合せ先】子ども課 子育て支援係 電話 0126-35-5133

楽しいキッズスポーツ教室の紹介



楽しいキッズスポーツ教室は、運動する機会が少なくなっている子どもたちに、運動やスポーツの楽しさを知ってもらうため、市内小学1～3年生を対象として、年10回開催しているスポーツ教室です。

令和4年度は144名の参加申し込みがあり、スポーツ推進委員の指導のもと、遊びと運動を掛け合わせたプログラム「バルシューレ」（遊びを通じた子どもたちのボール運動指導プログラム）を中心に実施しています。

また、今年度は、北海道教育大学岩見沢校と連携して、スポーツを楽しみながら人間的な成長を促すプログラム（CAPS-Child：キャップスチャイルド）を取り入れています。

CAPS-Child の取り組みの一つである、「Nチャレンジ」（※）を取り入れた体力測定を実施するなど、専門的かつ楽しめるメニューを提供していただき、子どもたちの運動能力の全体的な底上げと、身体を動かす楽しさへの「気づき」を期待しているところです。



Nチャレンジの様子
※ミニハードルやボールのジグザグ走で敏しょう性を測る運動プログラム

今後も、約150種類あるとされるバルシューレのメニューの中から、子どもたちの発達に応じたものをチョイスして、楽しい「遊びの場」を提供していきますので、申し込みをしたけどまだ参加していないという皆さんは、ぜひ、「楽しいキッズスポーツ教室」に来てみてください。お待ちしております！



【お問合せ先】生涯学習・文化・スポーツ振興課 文化・スポーツ振興係 電話 0126-35-5129



学習活動支援係 移転のお知らせ

生涯学習センターいわなびで執務を行っていた、生涯学習・文化・スポーツ振興課「学習活動支援係」は、令和4年6月6日（月）から、執務室をであえーる4階に移転いたしました。

なお、電話番号は変更ありません。

☎0126-23-9236

Let's
Challenge!

いわみざわチャレンジスクール

いわみざわチャレンジスクールは、地域で活動している方々が講師となり、子どもたちにその取り組みを教えています。地域の方々と子どもたちが一緒に活動することで、“**学校以外の人**”から“**学校の授業では教わらない**”ものを楽しく体験できます。様々な体験型の学習を通して、子どものチャレンジ精神と情操を育成できる講座、それが「いわチャレ」です。

令和4年度 今後の開催予定

内 容	開催日
調理体験	8/20、27
バルーンアート体験	9/10
ミニ・プラネタリウムづくり	9/17
天体望遠鏡づくり	9/24
ペットボトル・エコライトづくり	10/1
ミニ・ソーラーカーづくり	10/22

掲載した内容は、ほんの一例です。
他にも、たくさんの楽しい体験が開催されます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。



【お問合せ先】

生涯学習・文化・スポーツ振興課 学習活動支援係
電話 0126-23-9236



『中学生が107歳まで生きる！？』

教育長室から

教育長 三角 光二

日本の平均寿命は、世界のトップに立っています。国連の推計では、2050年までに日本の100歳以上の人口は100万人を突破するとされ、『LIFE SHIFT』（ライフシフト：リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット著）では、日本で2007年に生まれた子どもの半数は、107歳まで生きると予測しています。

人生が100年を超えるとすると、そのぶん健康を心がけて長く働くこともできます。これまで定年後の人生を「第二の人生」と言い表していましたが、将来は「第三、第四の人生」という新たなステージが出現するのかもしれません。

また、AI（人工知能）の発達により、多くの仕事で人の手を必要としなくなったとき、いまはない新たな仕事も生み出されていることでしょう。

100年の未来を生きる子どもたちが、長い人生をよりよく生きるために身につけるべき力はなんでしょう。

それは、過去の経験にとらわれず変化に柔軟に対応する力、視野を広げて選択肢を増やす力、自ら思考して判断し自己決定できる力ではないでしょうか。

社会がどう変わろうとも、自分で考え自分で決められる「自立」、社会を形成する一人として自身を律することのできる「自律」、うまくいかないことにへこたれず前向きに生活する「意志」が、子どもの人生を支えてくれることでしょう。

そのため、これからの学校に求められるのは、多くの知識を子どもに獲得させるだけではなく、知識を活用して難問にも立ち向かい、多様性を受け入れ、周囲の仲間と協働して解決するコミュニケーション能力や新たなものを生み出す創造力を育むことです。

そして、学ぶことの楽しさを知った子どもたちが、生涯にわたって学び続けることで未来の扉を開くカギを手に入れることができるのです。